

たか やすし ぜん さい せい きょう ぎ かい

# 高安自然再生協議会

- 事務局  
大阪経済法科大学地域総合研究所
- 対象地域  
大阪府八尾市  
(八尾市高安地域の大阪経済法科大学周辺や中地区、南地区、神宮寺、久宝寺緑地、恩智川とそれに流れ込む小河川。)
- 設立日：H26.1
- 構成員数：32人
- 全体構想作成日：検討中
- 実施計画作成日：検討中  
(H27.9現在)

## 再生目標

絶滅危惧種（I A類）のニッポンバラタナゴを含む地域固有の生物多様性を維持することで、人と自然が共生して暮らせる持続可能な地域づくりを目指す。

## 自然再生の手法

- 高安山の森林整備
- 里地里山の環境保全と再生
- 恩智川とその流域の水質調査
- 自然環境学習と地域と都市の交流



本地域は、古くから谷水と湧水を導水・貯水したため池を利用した農業が営まれ、今でも数多くのため池が残されています。ため池では水質維持のために行われてきた「ドビ流し」によりニッポンバラタナゴに代表される生物多様性豊かな環境が形成・維持されてきました。

しかし、本地域では農業の担い手の減少と高齢化が進み、人手不足により「ドビ流し」が行われなくなってきたため池が多くあります。

そこで、本協議会では、多様な人々による協働により、ドビ流しの実施などにより、ヒトの営みと自然が共生できるための里地里山の再生方法や水辺の伝統的水管理手法等を踏まえた水循環・物質循環の再構築を目指します。

## モニタリングについて

### モニタリングの目的と方法

#### ●モニタリングの目的

高安地域のニッポンバラタナゴの繁殖状況を把握するためモニタリングに取り組み始めました。

#### ●実施のきっかけ

1983年からニッポンバラタナゴの保護活動をはじめており、その成果をみるため、学生主体の調査をすることとなりました。

#### ●モニタリング継続期間

1999年～約15年

#### ●調査方法

##### ①魚類・貝類・陸上昆虫類調査

- ・月1回調査
- ・NPOニッポンバラタナゴ高安研究会と清風学園生物部が主体。毎回30名程度が参加
- ・溜池内のニッポンバラタナゴとドブガイを採集し、体長、殻長を測定し、体長分布を作成し、成長過程を推定する。



▲ニッポンバラタナゴとドブガイ



▲植物調査

##### ②植物調査

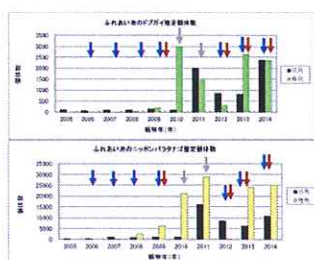
- ・月2回調査
- ・毎回15名程度が参加(NPO自然と緑のメンバー)
- ・定点写真の撮影
- ・視認による植物(外来種含む)調査

### 結果の活用方法

モニタリング結果は報告書にとりまとめ、高安自然再生協議会で共有しています。また、モニタリング結果のPR版を作成し、普及啓発の資料としています。



▲大阪経済法科大学のふれあい池におけるドビ流し(池干し)



▲ドブガイとニッポンバラタナゴの経年変化

### モニタリングの成果など

#### ●ドビ流しの効果

保護池の水質や生態調査をすることによってドブガイの繁殖方法を確立しました。

#### ●森林整備の効果

高安山の水源に近い森林整備をすることによって、郡川・楽音寺川の下流部にサワガニやゲンジボタルなどの生物多様性が再生されました。



▲郡川自然再生地

### 工夫した点

#### ●地元小学校との連携

魚類・貝類・陸上昆虫の調査のうち8月分は、中高安小学校5年生を中心とした地域の方々に参加していただき実施しています。



▲中高安小学校のため池調査

#### ●専門家の派遣

三重大学の専門家による大阪産ニッポンバラタナゴの遺伝的多様性に関するDNA解析を実施しました。

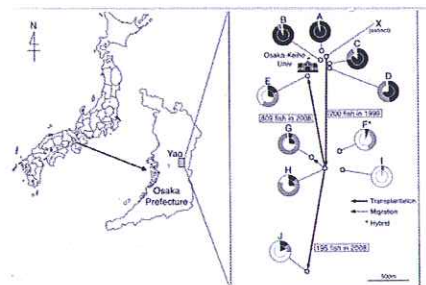


Fig. 1 三浦他

▲八尾市個体群の遺伝的多様性と地理的分布

### 今後の課題

自然再生を推進するためには、地元住民と協働し、高安地域の地場産業である花卉栽培や稲作および森林資源の持続的な利用方法を開発しなければなりません。現在、休耕田で地元の伝統工芸である河内木綿の原料となる和綿の有機栽培を実施しています。